

評価対象	評価項目	羅針盤 具体的数値項目	方 策	達成度			達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
				点検・評価 自己評価	外部 アンケート 評価	総合		
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	(11) 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合が90%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 授業や学校行事、生徒会活動を通して、充実感や達成感を得られるようにする。 友人や教師との信頼関係をつくり、好ましい人間関係を育成する。 	C	C	C	(1)(2)85%程度の評価は得られている。引き続き、生徒の実態を的確に把握しつつ、国や県の施策を念頭に置きながら、本校の特色をつくり出していきたい。その際、目指す学校像について、職員と生徒で目線合わせをする必要があるだろう。(3)80%を超える評価は得られている。ものづくりを通して、生徒が何を知り何を考え、自らの考えをどう深めたのか、引き続き評価方法等も検討しながら、工業科全体で情報共有をしていきたい。その情報共有が、教育活動の改善につながるだけでなく、時代のニーズを踏まえながら各科の特性を活かすことにもつながるだろう。また、プレゼンテーション能力の向上等、学校全体で取り組んでいくことで、より成果が上がっていくだろう。(4)80%超の評価は得られているので、生徒は各科の特徴や自らの進路を見据えて資格取得に積極的に取り組むことができたと言える。しかし、基礎的な内容の資格については高い合格率を維持できたものの、難しい国家資格については合格率が低くなっているのが現状である。生徒が主体的に学び、資格取得に積極的に挑戦し合格できるよう、各科において指導方法の見直しや資格の精選、資格取得に向けた情報発信等を行い、改善を図ってきたい。	学校は熱心に取り組んでいる。その上で、よりよい学校にしていくために、以下の3つの助言ができる。 ・そもそも工業高校として特色は十分にあるので、有効なアピール方法を検討していくべきである。 ・生徒それぞれがエージェンシーを発揮するために、様々な場面において、より具体的な目標設定やスモールステップの設定等が必要ではないか。 ・ものづくりにおいて、資格が重要なのは言うまでもない。難しい資格も取得できるよう、支援してほしい。
		(12) 学校行事に対して、自分で考えて、自分で行動している与自己評価している生徒が85%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や生徒会活動を通して、充実感や達成感を得られるようにする。 学校行事においてエージェンシーを発揮することにより、クラス・学年・学校への帰属意識を高める。 	C	A	B		
		(13) 課題研究や専門科目に魅力を感じ、自分で考えて、自分で行動している生徒が85%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 時代のニーズをとらえ、各科の特性を重視し、専門科目の充実を目指す。 課題研究では、専門的な知識と技術の深化を図り、自発的・創造的な学習態度を育てる。また、プレゼンテーション能力を高め、伝えたいことを明確に表現できる能力を育てながら、協働的な学びを実現する。 	C	C	C		
		(14) 資格取得に積極的に取り組み、その指導も充実していると感じている生徒が85%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 各科の特徴や進路を見据えて資格取得の重要性を認識させる。 職員が協力して効果的に指導し、合格率を高める。 	C	B	B		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導や支援を行っていますか。	(15) 興味・関心を引き出し、授業が有意義であると感じている生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒それぞれのキャリア形成を意識しながら授業を構想する。 授業展開や生徒の実態に応じて、グループワークやプリント教材、ICT機器を効果的に組み合わせて活用する。 	D	D	D	(5)(7)卒業後は就職する生徒が多いため、実社会とのつながりを十分に意識した授業を展開していく必要がある。授業を通して、これからの時代に必要となる資質・能力を育成していきたい。また、協働して取り組む時間ももっと増やす必要があるだろう。 (6)スタディサプリは今年度から導入した学習ツールであるため、今年度の取組状況はしっかりと振り返り、来年度以降より活用方法が見い出せるよう検討していきたい。生徒それぞれの取組状況は悪くはないので、いかにPDCAサイクルを回していくかが課題となる。 (8)80%を超える評価は得られている。全学年で企業等見学の機会を設けたり、2年次のインターンシップを継続・発展させたりして、専門技術への興味・関心を高めつつ、職業観や勤労観を育むこともできた。また、今年度は3Dプリンターを整備し、全学科で最新の専門知識・技術に触れる機会を多く設けることができた。今後さらに校外と連携したり、最新の技術を導入したりしながら、ものづくりの面白さを体験させ、授業や実習に対する満足度を上げていきたい。	
		(16) リクルートの「スタディサプリ」を積極的に活用していると自己評価している生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 「到達度テスト」を基点としながらPDCAサイクルを回し、基礎学力の向上と学習習慣の確立に努める。 「進路向け講座」や「一般教養対策」等のコンテンツも活用し、生徒それぞれにとって必要な学びを提供する。 	D	D	D		
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	(17) 学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> シラバスを活用し、学習のねらいや授業の進度、評価の観点を事前に生徒に伝え、学習意欲を引き出す。 授業アンケートを活用し、生徒の実態に合わせた授業を展開する。 	D	C	C		
		(18) ものづくりや専門技術への興味・関心を高めさせ、授業・実習に満足している生徒が85%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 産学連携による労働基準監督署・企業との連携を強める。特に1学年の安全教育を実施し、工業で学ぶ上での安全意識・知識を早期の段階で定着させる。 専門学科講師派遣事業などを通して、ものづくりへの興味を深める。 企業と連携を図りインターンシップを実施し、高い専門知識と職業観を醸成する。 	C	B	B		
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	(19) 基本的な生活習慣が身に付いている(あいさつ・遅刻・提出期限など)と思う生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の定着が学校生活の充実につながることを生活指導を中心に機会を設け指導する。 毎日、授業の開始・終了時や通路・廊下等で生徒に積極的に声をかけ、あいさつの習慣化を図る。 	D	A	B	(10)(11)(12)(14)目標をおおむね達成することができた。今後も生徒の人権を尊重しながら、安心・安全な学校、さらには居心地のよい学校を維持していきたい。 (9)(15)職員と生徒の評価に大きな差が見られた。それぞれの「充実した学校生活」の定義が異なることが要因と考えられる。お互いの目線合わせをした上で、よりよい学校をつくってきたい。 (13)進路が決まった3年生の遅刻が増えなかったことは評価できる。ごく一部の生徒が繰り返し遅刻をしているため、目標を達成できないのが実情である。機会があるごとに個別対応しながら、余裕を持って登校させるようにしたい。	
		(110) 学校は校内美化や安全な環境づくりを心掛けていると感じている生徒・保護者が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 日々の清掃活動を積極的に円滑な体制をつくる。 定期的に安全点検チェック表を確認し、改善を目指す。 危険を伴う場面や場所等を意識して安全に配慮して活動を行なう。 	C	B	B		
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に取組んでいますか。	(111) 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に取組んでいると感じている生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> いじめの未然防止を目指し、SCや特別支援コーディネーター、教育相談を活用し組織的に取り組む。 普段から生徒の表情、言動、態度に気を配る。また「生活振り返りアンケート」・「SOSシート」を計6回実施し、内容を精査する。 生徒、教員の人権意識を高め、いじめを見逃さない・許さない雰囲気をつくり、組織的で迅速な対応を図る。 	B	B	B		
		(112) 学校は生徒がSNSやインターネットの危険性や正しい利用方法について学ぶ機会をつくっていると感じている生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> SNSに頼らない人間関係づくりを目指し、生徒のコミュニケーション能力の向上を図る。 スマホルールづくりを通してSNSやインターネットの危険性を理解させ、正しい利用方法を学ばせるなどICTリテラシーの向上を図る。 	A	A	A		
		(113) 1日平均の遅刻者数が全校生徒の0.8%以下である。	<ul style="list-style-type: none"> 家庭との連絡を密にするとともに、教育相談や健康相談を充実させる。 10分前登校を勧め、余裕ある通学をさせる。 	C	/	C		
		(114) 生徒の心身両面の健康に配慮した指導を評価している生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の心身両面の健康に配慮し保健便り等を定期的に発行して、健康管理の啓発に努める。 新型コロナウイルスやインフルエンザ、熱中症対策等、予防や事後対応を迅速に行なう。 	A	A	A		
6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	(115) 部活動が充実していると評価している生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 部活動オリエンテーション、学年集会等を通じ加入を呼びかける。 	D	C	C			
	(116) 時期や内容に則した進路情報を提供していると感じている生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 「進路の手引き」を活用し、進路のルールや手続きについての情報を周知する。 「進路だより」を定期的に発行し、進路に関する情報を生徒・保護者に提供する。 学年別懇談会等において、外部講師による進路講話等を実施し、保護者の意識向上を図る。 	A	A	A			
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	(117) 3年間計画立ててキャリア教育を推進し、進路行事等が充実していると感じている生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 進路見学会(大学・企業等)やガイダンス(進学・就職説明会)を実施する。 キャリア教育について考える機会として、キャリアパスポートとキャリアノートに定期的に取り組む。 	A	A	A	(16)十分な評価が得られた。この評価を踏まえて、次年度以降はより生徒が主体的に自らの進路を考えられるような指導を検討していきたい。 (17)十分な評価が得られた。今年度から各学年において企業等見学を実施した成果だと考えられる。3年間の系統性を意識しながら、より有意義な進路行事等を企画していきたい。 (18)職員の評価と生徒の評価に大きな差が見られた。この差を本校の「伸びしろ」と捉えることができる。進路適性を考えるとはどういうことなのか、進路実現に積極的に取り組むとはどういうことなのか、分かりやすく伝えることを心掛けながら、生徒の関心を高めるようにしていきたい。	
		(118) 自分の進路適性を考え進路実現に積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 「進路だより」を活用して、最新の進路情報を提示する。進学希望生徒には進学費用なども情報提供して理解を促す。 進路適性の理解や職業観・勤労観の育成に役立つ職場体験(インターンシップ)への協力を企業に働きかける。 	C	A	B		
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	(119) 学校の教育活動を理解してもらうために、PTA総会や学年別懇談会の参加率は、60%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 懇談会の内容を工夫して、参加率を向上させる。 欠席者に配布物を配り、欠席者対象の2次懇談会を実施する等、本校の教育活動の周知を図る。 	B	/	B		
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	(120) Webページを月5回以上更新し、学校は広報活動に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の日常の活動を保護者や中学生向けに編集し、随時発信する。 学校の諸行事を迅速にWebアップし、写真や、意見等を盛り込みながら、興味・関心が高まるように内容を工夫する。 	C	/	C		
		(121) 学年通信や学級通信を年3回以上発行している。	<ul style="list-style-type: none"> 学年主任を中心に学年団が協力して発行する。 	A	/	A		
		(122) ICTを活用した授業に、生徒の80%以上が満足している。	<ul style="list-style-type: none"> スライドや動画等を活用し、分かりやすい授業を行う。 Google Classroomやフォームを活用し、生徒が主体的に取り組めるよう工夫する。 	B	A	A		
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	(123) 学習用端末を授業時間の30%以上利用している。	<ul style="list-style-type: none"> 指導内容に応じて積極的に学習端末を活用している。 職員同士で活用方法に関して情報を共有したり研修を行なったりしながら、資質向上に努める。 	A	A	A	(22)(23)(24)(25)十分な評価が得られた。今後もICTを手段としながら、目的の達成に努めていきたい。	
		(124) ICTを活用した通知に、生徒・保護者の80%以上が満足している。	<ul style="list-style-type: none"> 「スマート連絡帳」やGoogle Classroomを活用し、保護者にも積極的に情報発信し、教育活動の理解と関心を促す。 	A	A	A		
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	(125) オンラインによるアンケートを年間5回以上活用している。	<ul style="list-style-type: none"> オンラインによる調査によって迅速で的確なアンケートを積極的にを行い、生徒の実態把握に努める。 	A	/	A		

A:十分に達成できた B:達成できた C:もう少しで達成できた D:達成できなかった